

第5章 家事の状況

1 現在の家事の従事状況

(1) 総数

現在、高齢者の約5割～6割が主に自分で家事を行っている。

次の①～④の家事

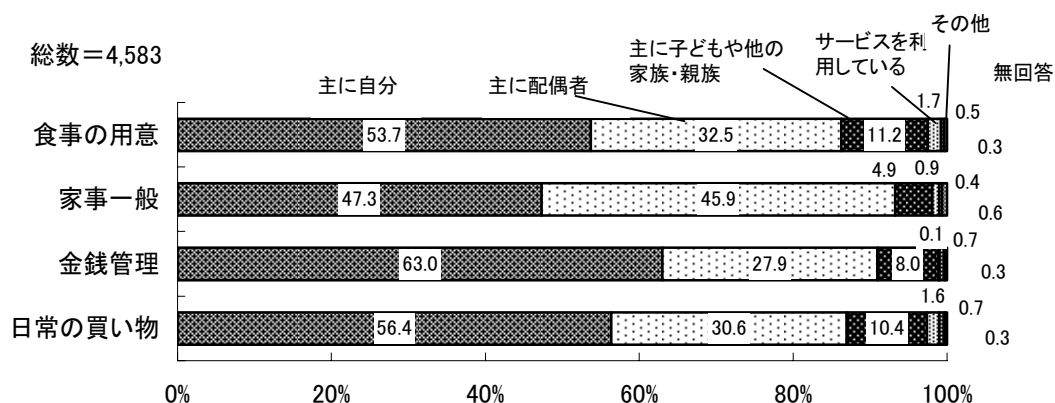
- ① 食事の用意【献立を考える・材料を用意する・料理する・配膳する】
- ② 家事一般【食事の後片付け・掃除・布団、ベッドの整理・洗濯 など】
- ③ 金銭管理【請求書の支払い・貯金のおし入れ・家計のやりくり】
- ④ 日常の買い物【食べ物や衣類など必要な物を自分で選び、支払う】

について、

- 現在誰がやっているか
- 現在家事を行っている人が何らかの理由で家事ができなくなってしまった場合、その家事をどうするのかを尋ねた。

上記①～④の家事について、現在誰がその家事を行っているかについて尋ねたところ、「主に自分」と答えた高齢者がどの家事でも5割から6割前後と一番多く、次いで「主に配偶者」3割から4割、「主に子どもや他の家族・親族」と続く。また、「金銭管理」では、他のサービスに比べて「サービスを利用する」が0.1%と低い。(図5-1)

図5-1 現在の家事の従事状況



(注) 選択肢中「サービス」とは、家政婦などによる家事援助サービス、各種団体や株式会社などによる配食サービスや宅配サービス、福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)、外出支援サービスなどをいう。

(2) 性別

女性は何の家事も「主に自分」が約8割で最も高く、男性は「主に配偶者」の割合が最も高い。

家事について、それぞれ、誰が行っていると回答したかを性別で示したものが下図 5-2 である。

これをみると、女性ではどの家事でも「主に自分」と答えた人が最も多く、8割前後となった。男性ではどの家事でも「主に自分」は少なく、「主に配偶者」が最も多い。特に「食事の用意」の割合は、女性の「主に自分」81.4%に対し、男性は19.6%と低い。(図 5-2)

図 5-2 現在の家事の従事状況【性別】

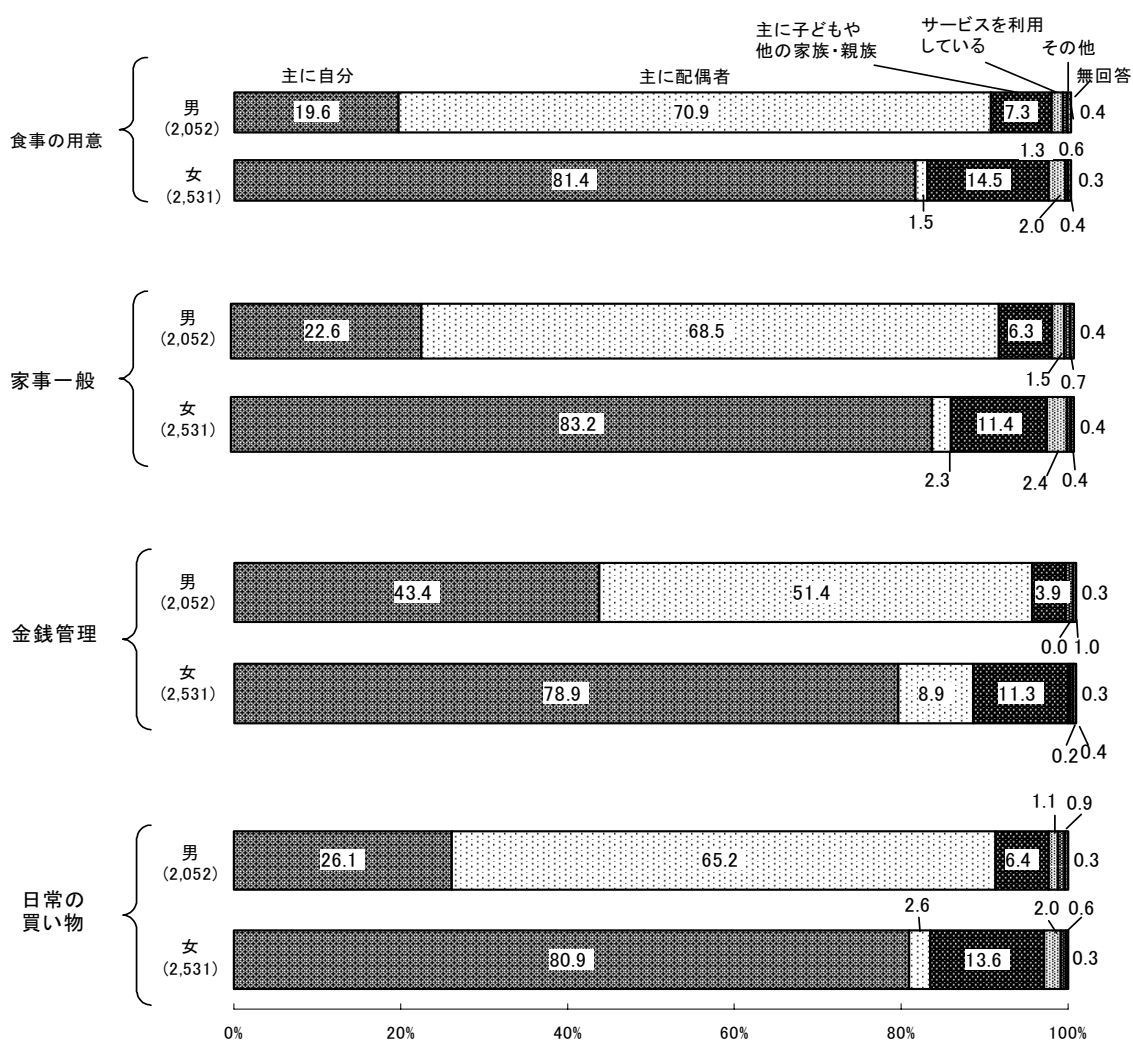


図 5-2 より、「金銭管理」以外の「食事の用意」「家事一般」「日常の買い物」については同じような傾向が見られることから、以下(3)①では3つの家事を代表して「食事の用意」を、(3)②では「金銭管理」について、みていく。

(3) 家事の種類ごとの比較

食事の用意を、主に自分で行う男性は20%だが、金銭管理を主に自分で行う男性は43%

① 食事の用意の分析

まず、性・年齢階級別でみると、女性の前期高齢者(65歳～74歳)では「主に自分」と答えた人の割合が91.9%であるが、後期高齢者(75歳以上)では、69.2%と22.7ポイント低い。一方、男性の前期高齢者(65歳～74歳)では「主に自分」が20.1%、後期高齢者(75歳以上)では18.8%と、女性のように前期・後期高齢者で大きなポイント差はみられない。(表5-1-1)

また、動作能力類型別でみると、「ねたきり等の高齢者」では「主に子どもや他の家族・親族」が45.7%で最も多く、次いで「主に配偶者」が27.3%となっている。

表 5-1-1 現在の家事の従事状況(食事の用意)－性・年齢階級、動作能力類型別

		総 数	主 に 自 分	男	女	主 に 配 偶 者	夫	妻	族他主 のに 家子 族ども ・親や	用サ ービ スを 利 用	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	53.7	8.8	44.9	32.5	0.8	31.7	11.2	1.7	0.5	0.3
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (2,052)	19.6	19.6	－	70.9	－	70.9	7.3	1.3	0.6	0.4
	65～74歳	100.0 (1,255)	<u>20.1</u>	20.1	－	74.7	－	74.7	3.1	0.8	0.9	0.5
	75歳以上	100.0 (797)	<u>18.8</u>	18.8	－	64.9	－	64.9	13.8	2.1	0.1	0.3
	女	100.0 (2,531)	81.4	－	81.4	1.5	1.5	－	14.5	2.0	0.4	0.3
	65～74歳	100.0 (1,359)	<u>91.9</u>	－	91.9	1.3	1.3	－	5.7	0.3	0.3	0.4
	75歳以上	100.0 (1,172)	<u>69.2</u>	－	69.2	1.6	1.6	－	24.6	4.0	0.4	0.2
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	14.4	1.6	12.9	<u>27.3</u>	5.0	22.3	<u>45.7</u>	11.0	0.8	0.8
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (93)	47.3	3.2	44.1	32.3	3.2	29.0	14.0	6.5	－	－
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	54.4	10.9	43.6	28.0	0.5	27.5	14.9	1.5	0.7	0.4
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	58.3	9.2	49.0	34.3	0.3	33.9	6.3	0.5	0.4	0.3

介護保険サービスの意思決定別でみると、介護保険サービスを「自分」で決定することが望ましいと回答した人は、「主に自分」で食事の用意をしている割合が 59.3%と、自分以外の人に介護保険サービスの決定をしてもらうのが望ましいと回答した人と比較して、高い。一方、「家族や親族」が決定するのが望ましいと回答した人は、食事の用意を「主に子どもや他の家族」にしている割合が 18.1%と、他の人に決定してもらうのが望ましいと回答した人と比較して高くなっている。(表 5-1-2)

介護予防サービス(栄養改善)への参加意向別にみると、「積極的に参加したい」人では「主に自分」が 66.4%、「あまり気は進まないが、参加してもよい」では 60.1%と、参加意向のある人では家事を自分でしている割合が高い。

表 5-1-2 現在の家事の従事状況(食事の用意)

－介護保険サービスの意思決定、介護予防サービス(栄養改善)への参加意向別

		総数	主に自分	男	女	主に配偶者	夫	妻	の主に 家族・子ども 親や他	サービス を利用 している	その他	無回答
総数		100.0 (4,583)	53.7	8.8	44.9	32.5	0.8	31.7	11.2	1.7	0.5	0.3
介護 保険 の 意 思 決 定 サ ー ビ ス 別	自分	100.0 (1,955)	<u>59.3</u>	10.9	48.4	31.0	0.5	30.5	7.5	1.5	0.5	0.2
	家族や親族	100.0 (1,263)	45.4	5.1	40.2	34.6	1.3	33.3	<u>18.1</u>	1.0	0.4	0.6
	専門家(ケアマネジャー、かかりつけ医等)	100.0 (691)	54.0	8.8	45.2	34.3	0.9	33.4	7.1	3.6	0.7	0.3
	わからない	100.0 (521)	57.6	10.9	46.6	30.7	0.6	30.1	10.2	1.2	0.4	－
介護 予 防 サ ー ビ ス (栄 養 改 善) へ の 参 加 意 向 別	積極的に参加したい	100.0 (851)	<u>66.4</u>	6.9	59.5	26.3	0.5	25.9	6.1	0.2	0.4	0.6
	あまり気は進まないが、参加してもよい	100.0 (646)	<u>60.1</u>	9.3	50.8	28.6	0.6	28.0	9.9	1.1	0.3	－
	今はまだ健康であり、参加する必要を感じない	100.0 (948)	53.3	8.1	45.1	39.3	0.3	39.0	6.1	0.5	0.5	0.2
	参加したいと思わない	100.0 (1,335)	50.6	10.0	40.6	35.5	0.4	35.1	11.9	1.6	0.4	－
	わからない	100.0 (398)	52.8	12.3	40.5	27.6	1.0	26.6	15.1	3.3	1.3	－

(注)「介護予防サービス(栄養改善)への参加意向別」は、要介護認定で要介護2～5と認定された人を除く4,376人が回答

② 金銭管理の分析

金銭管理では、男性が「主に自分」と回答した割合が 43.4%と、4 割を超え、男性における他の家事の割合に比べて高くなっている。また女性が「主に配偶者」と答えた割合(8.9%)も他の家事より高い。(p 66、図 5-2 参照)

介護保険制度のサービスの意思決定別にみると、「金銭管理」では、サービスの選択を「自分」で行うのが望ましいと回答した人では、「主に自分」で金銭管理を行っていると回答した人の割合が 70.5%と、自分以外の人にサービス決定をしてもらうのが望ましいと回答した人と比較して、高い割合になっている。(表 5-2)

表 5-2 現在の家事の従事状況(金銭管理)
一性・年齢階級、介護保険サービスの意思決定別

		総数	主に自分	男	女	主に配偶者	夫	妻	の主に 家族・子ども 親族や他	しサー ている ビスを 利用	その他	無回答
総数		100.0 (4,583)	63.0	19.4	43.6	27.9	4.9	23.0	8.0	0.1	0.7	0.3
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	43.4	43.4	-	51.4	-	51.4	3.9	-	1.0	0.3
	65～74歳	100.0 (1,255)	42.1	42.1	-	55.3	-	55.3	1.2	-	1.1	0.3
	75歳以上	100.0 (797)	45.4	45.4	-	45.3	-	45.3	8.2	-	0.8	0.4
	女	100.0 (2,531)	78.9	-	78.9	8.9	8.9	-	11.3	0.2	0.4	0.3
	65～74歳	100.0 (1,359)	86.2	-	-	9.6	-	-	3.2	-	0.4	0.4
	75歳以上	100.0 (1,172)	70.4	-	-	8.0	-	-	20.6	-	0.3	0.3
	介護保険 サービス の意思決定 別	100.0 (1,955)	70.5	23.7	46.8	24.9	4.5	20.4	3.8	0.1	0.6	0.3
	自分	100.0 (1,955)	70.5	23.7	46.8	24.9	4.5	20.4	3.8	0.1	0.6	0.3
	家族や親族	100.0 (1,263)	52.8	14.3	38.6	31.7	5.8	25.9	14.6	0.2	0.5	0.3
	専門家(ケアマネジャー、 かかりつけ医等)	100.0 (691)	65.0	19.7	45.3	28.1	4.3	23.7	5.9	0.4	0.6	-
	わからない	100.0 (521)	61.8	18.6	43.2	29.4	5.2	24.2	6.9	-	1.2	0.8

ここまでで現在の家事の従事状況のうち、「食事の用意」と「金銭管理」の総数についてみてきたが、少なくとも、性別により回答が異なることがわかった。よって、家事の担い手となる世帯員の構成が異なれば、それぞれ現在誰が家事を行っているのか、また、将来その人が出来なくなった時にどうしようと思っているのかも異なってくると思われる。

そこで、高齢者を(1)ひとりぐらしの高齢者(p 70～)、(2)夫婦のみで暮らす高齢者(p 72～)、(3)子どもと同居している高齢者(p 74～)の3つに分類してみていく。

2 世帯構成別の現在の家事の従事状況と将来の意向

(1) ひとりぐらしの高齢者

現在は、男女ともに「主に自分」が約9割。現在、サービスを利用しているのは男性が多い。将来は自分で家事をできなくなったら男女ともに「金銭管理」を除き、サービスを利用する意向が強い。

① 現在の家事の従事状況(男女別)

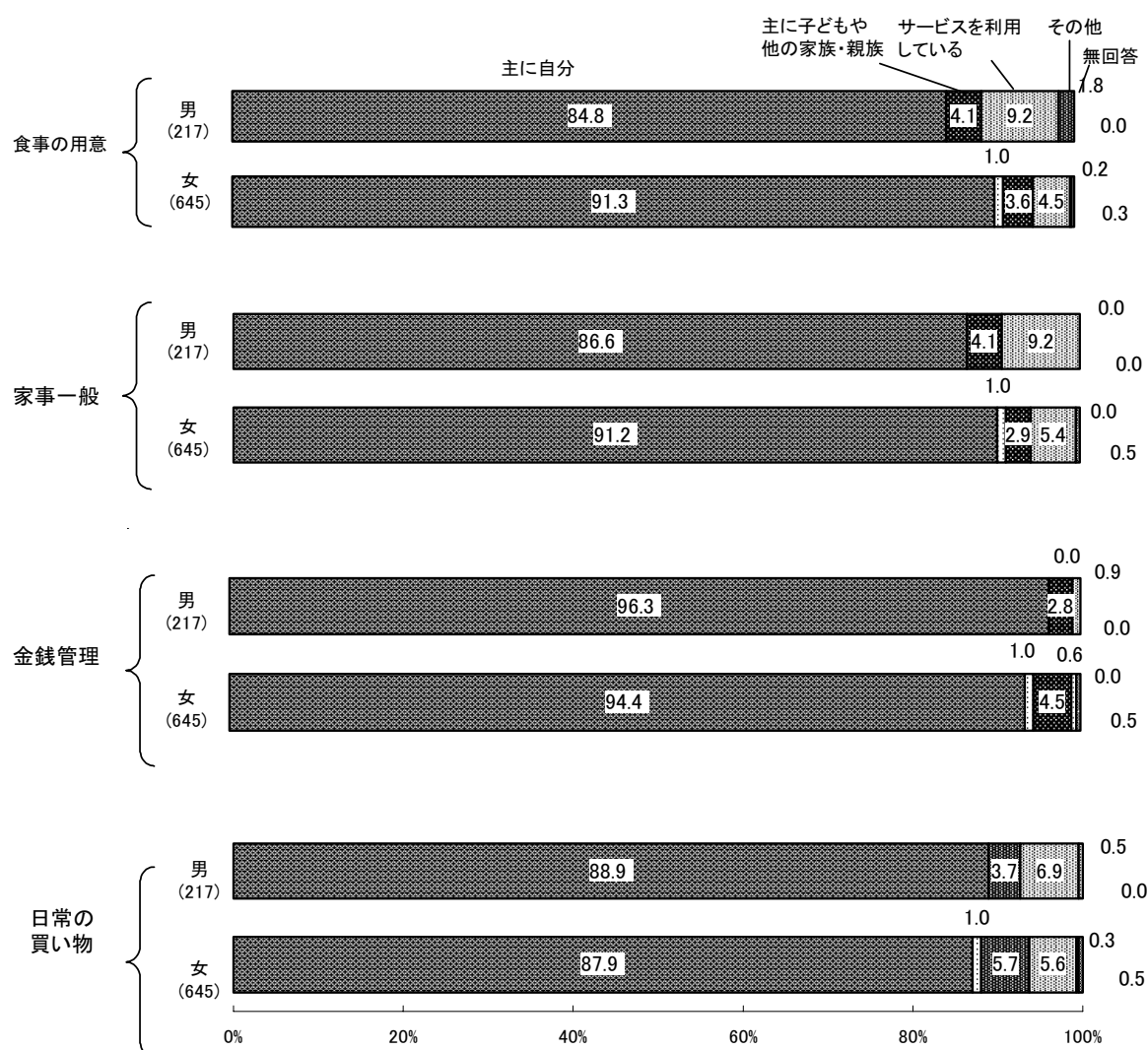
ひとりぐらしの高齢者に、現在誰が家事を行っているのかと尋ねた。

男女ともに「主に自分」の割合が最も高く9割前後となっている。また、「金銭管理」と女性の「日常の買い物」を除いて次に多いのは「サービスを利用している」となっている。

(図5-3)

また、「金銭管理」を除き、男性の方が女性より「サービスを利用している」割合が高い。

図5-3 ひとりぐらし高齢者の現在の家事の従事状況



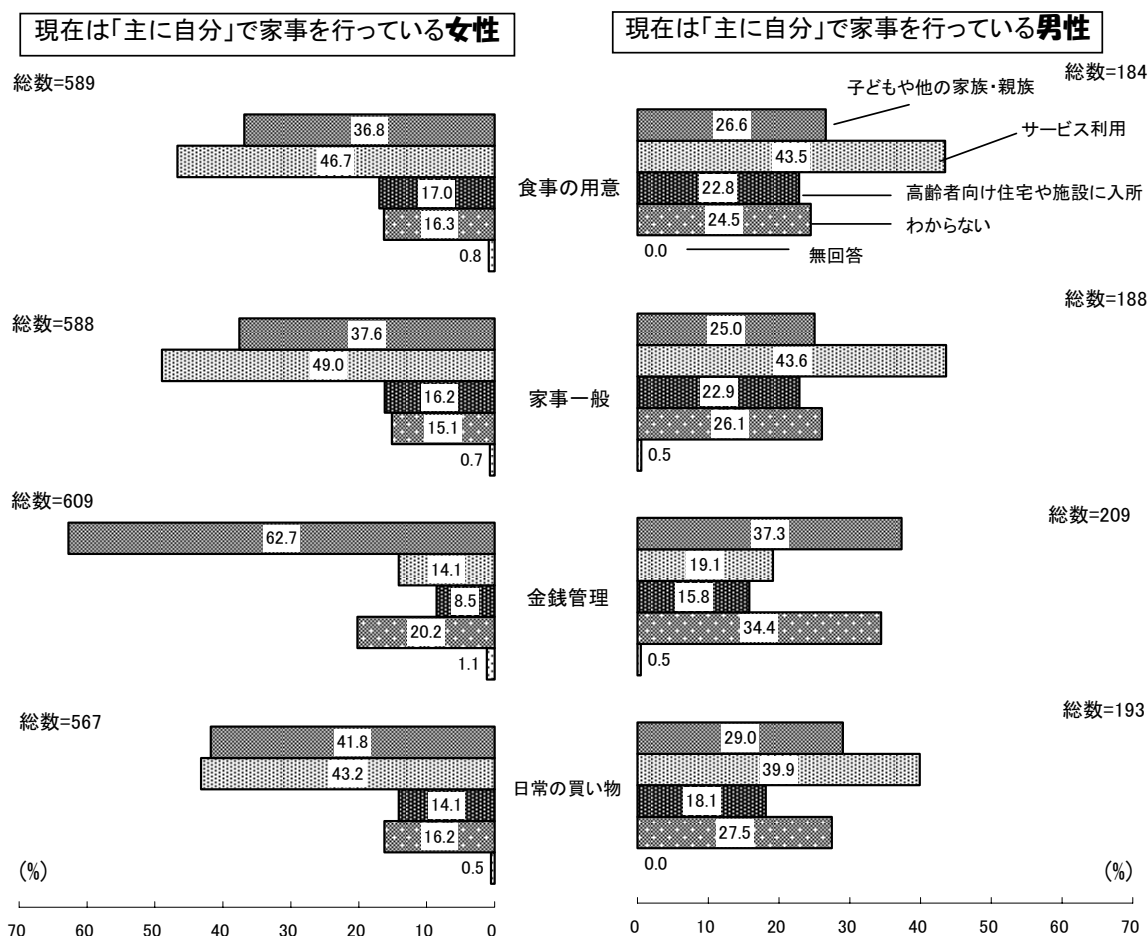
② 将来の家事の意向(男女別)

現在は「主に自分」で家事をしているひとりぐらし高齢者に、将来自分で家事をできなくなったら、家事をどうするかと尋ねた。

男女ともに、「金銭管理」を除いて最も多いのが「サービスを利用する」で、次いで「子どもや他の家族・親族」にやってもらう、と続く。(図 5-4)

また、女性(図 5-4 左)では男性より「子どもや他の家族・親族」と回答する人の割合が高く、男性(図 5-4 右)では女性より「高齢者向け住宅や施設に入所する」を回答する人の割合が高い。

図 5-4 ひとりぐらし高齢者の将来の家事の意向



(2) 夫婦のみで暮らす高齢者

現在は、金銭管理を除き、女性(妻)の約9割が自分で家事を行っている。

将来、男性(夫)は配偶者(妻)が食事の用意、家事一般をできなくなった場合、自分でやる意向が約6割だが、女性(妻)が配偶者(夫)にやってもらう意向は5割以下。

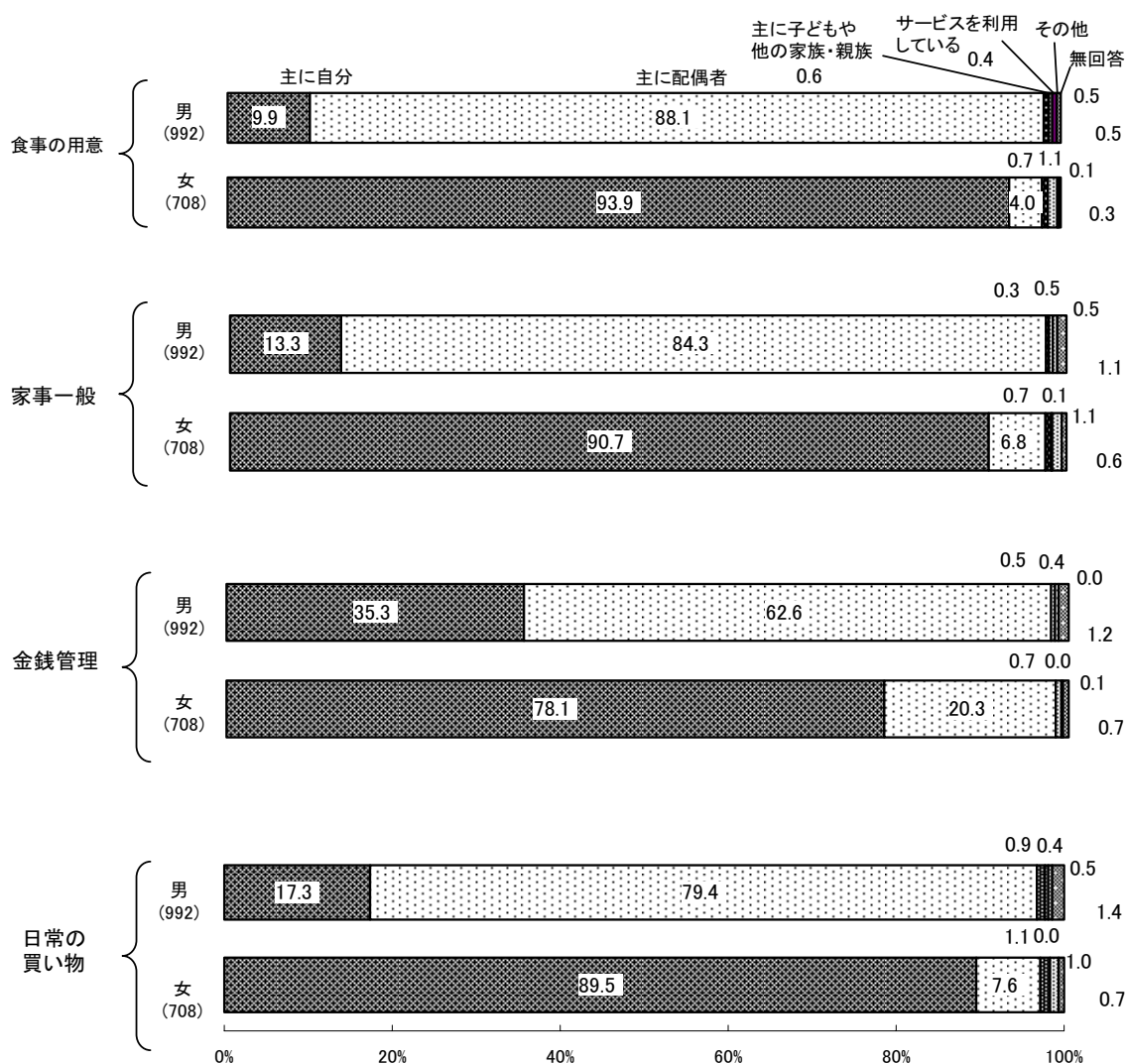
① 現在の家事の従事状況(男女別)

夫婦のみで生活している高齢者に、現在誰が家事をやっているのかと尋ねた。

男性(夫)では「主に配偶者」がどの家事も最も多かったが、「金銭管理」では「主に配偶者」は62.6%と他の家事に比べて低く、「主に自分」が35.3%で、他の家事に比べて割合が高い。女性(妻)では「主に自分」がどの家事でも最も多く、「金銭管理」を除いて9割前後となっている。(図5-5)

男女ともに、「夫婦のみ」世帯の高齢者ではほとんどの人が、「自分」か「配偶者」が家事を担っていることがわかる。

図5-5 夫婦のみで暮らす高齢者の現在の家事の従事状況



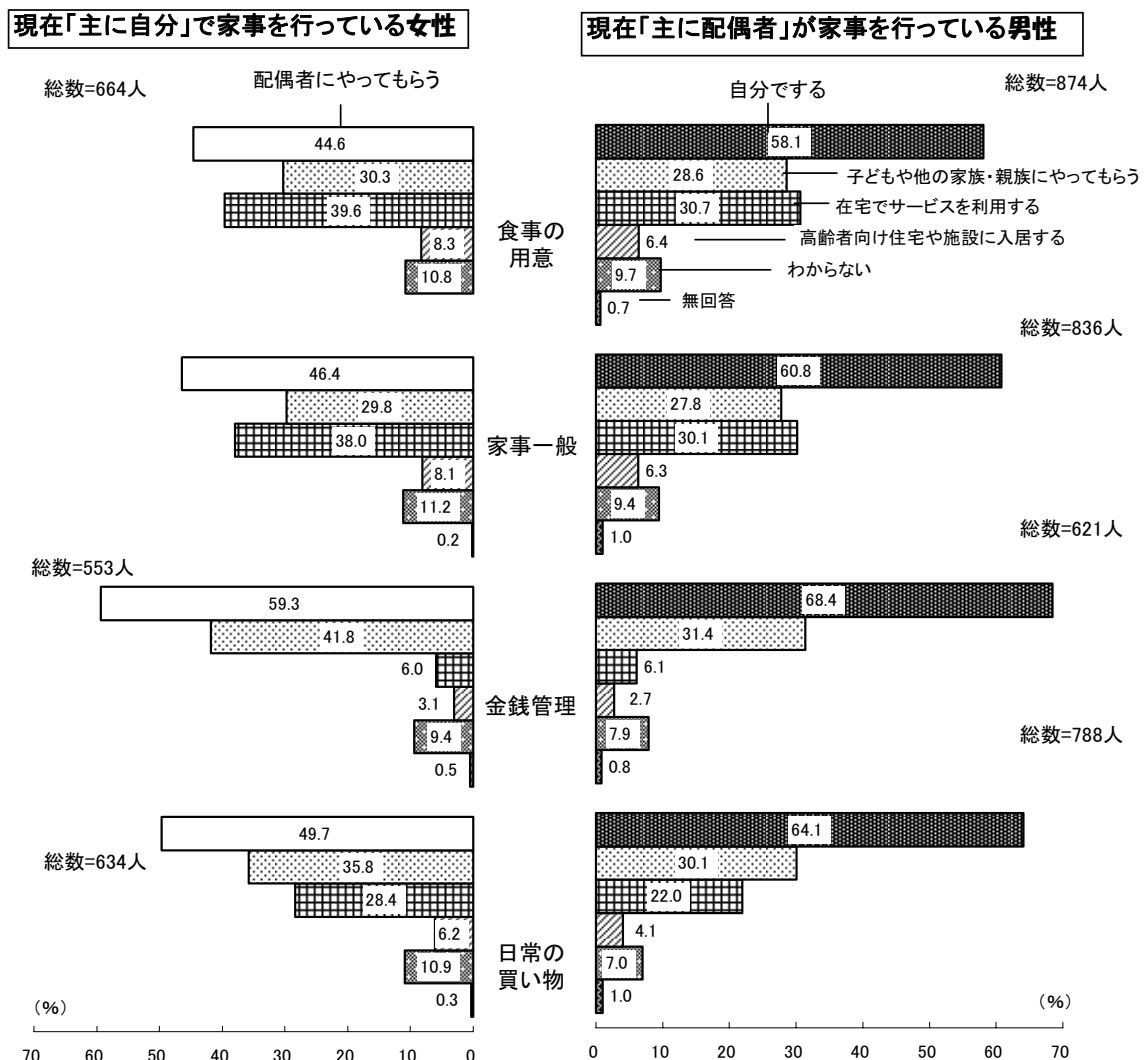
② 将来の家事の意向(男女別)

次に、現在「主に配偶者」が家事を行っている男性(夫)には配偶者(妻)が、現在「主に自分」で家事を行っている女性(妻)には自分が、それぞれ将来家事ができなくなった場合にどうするかを尋ねた。

現在「主に配偶者」が家事を行っている男性(夫)は、配偶者(妻)ができなくなったら「自分でする」がどの家事でも最も多く、「食事の用意」「家事一般」でも6割にのぼる。現在行っていないくても、将来的には家事への意欲があることがうかがえる。(図5-6 右)

現在「主に自分」でやっている女性(妻)も、自分でできなくなったら「配偶者にやってもらう」がどの家事でも一番多い。しかし、その割合は「金銭管理」を除き、5割以下にとどまっている。また、「食事の用意」「家事一般」では「在宅でサービスを利用する」が4割近くに達し、サービスの利用意向も強い。(図5-6 左)

図5-6 夫婦のみで暮らす高齢者の将来の家事の意向(複数回答)



(3) 子どもと同居している高齢者

男性は、将来配偶者(妻)が家事をできなくなったら自分でやる意向が強いが、女性は、自分でできなくなったら子どもや家族・親族にやってもらう意向が強い。

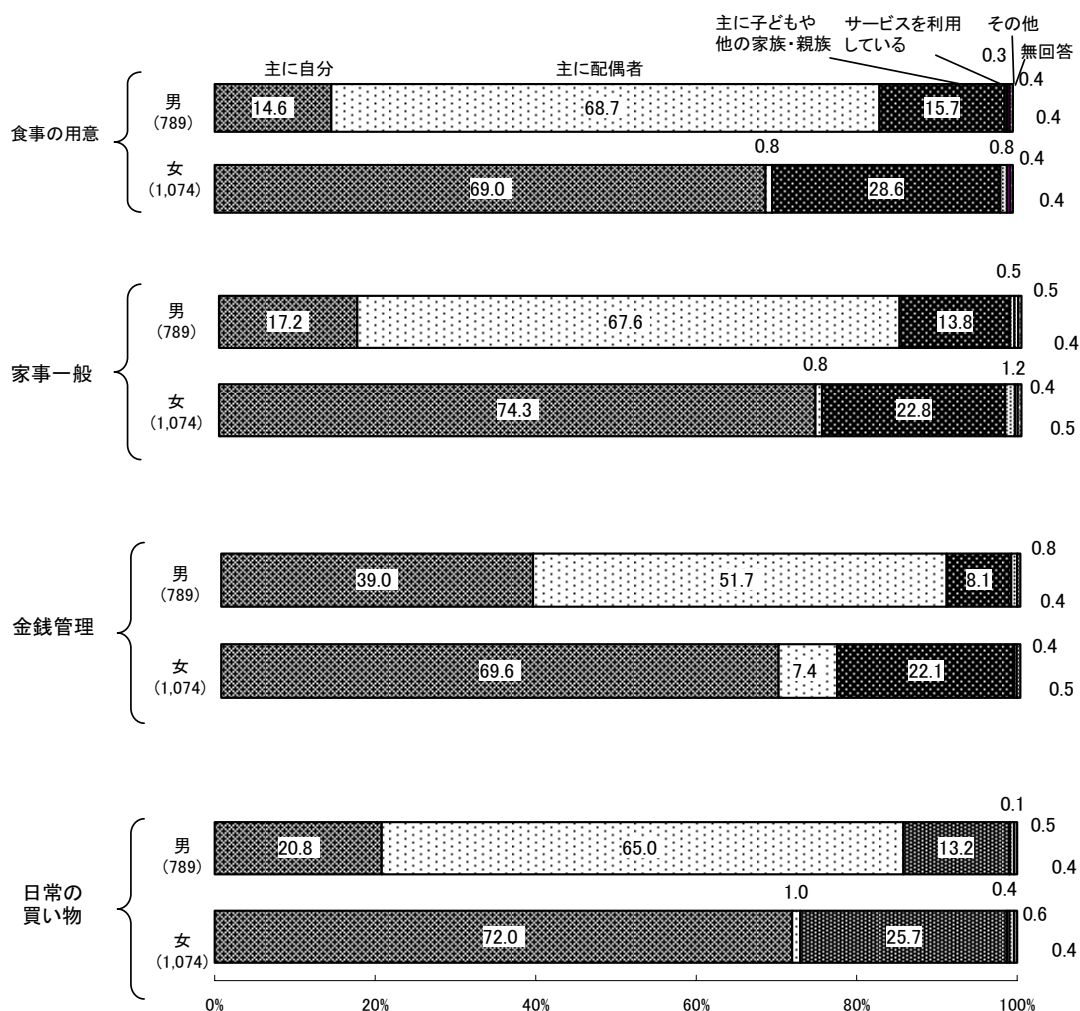
① 現在の家事の従事状況(男女別)

子どもと同居している高齢者(注1)について、現在誰が家事を行っているか尋ねた。

男性では、最も多いのが「主に配偶者」で、「金銭管理」を除き、その割合は約7割である。(図5-7)

女性では、最も多いのが「主に自分」で7割前後、次いで「主に子どもや他の家族・親族」(2～3割弱)となっており、男性の「主に子どもや他の家族・親族」(1割弱～1割強)に比べると高い。

図5-7 子どもと同居している高齢者の現在の家事の従事状況



(注)「子どもと同居している」高齢者とは、2世代で暮らす高齢者のうち、高齢者本人が親の世代と、3世代(親、子、孫)で暮らす高齢者(自分が親、子)の数を合計したもの。

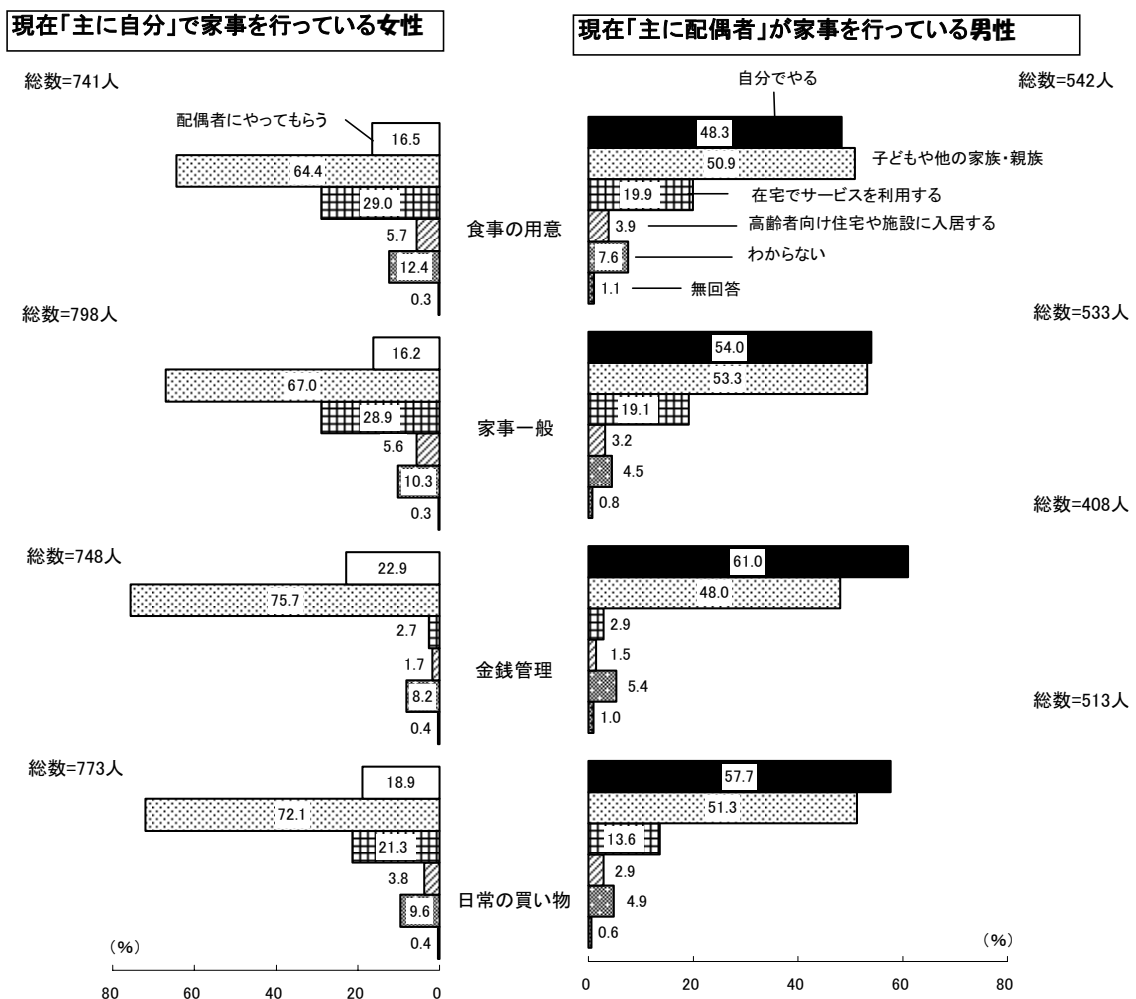
② 将来の家事の意向(男女別)

現在「主に配偶者」が家事を行っている男性には配偶者(妻)が、現在「主に自分」で家事を行っている女性には自分が、それぞれ将来家事をできなくなった場合にどうするかを尋ねた。

男性では、「食事の用意」を除き、「自分でやる」が最も多い。「子どもや他の家族・親族にやってもらう」も5割前後となっている。「金銭管理」については、「自分でやる」61.0%と「子どもや他の家族・親族」48.0%とで13ポイントの差がある。(図5-8 右)

一方、女性では、「配偶者にやってもらう」は2割前後にとどまり、「子どもや他の家族・親族にやってもらう」がどの家事でも最も多い。また、「金銭管理」を除き、「在宅サービスを利用する」も男性より多くなっている。(図5-8 左)

図5-8 子どもと同居している高齢者の将来の家事の意向(複数回答)



「2 世帯構成別の現在の家事の従事状況と将来の意向」について、(1)～(3)の世帯構成に分けて傾向をみてきたが、それぞれの世帯構成において、特徴となる部分を下表にまとめた。

世帯構成	時点	性別	
		男性	女性
ひとりぐらしの高齢者 (p70、71 参照)	現在の家事の担い手	どの家事も自分で行っている割合が最も高く、9割。	どの家事も自分で行っている割合が最も高く、9割。
	 将来の意向	自分で家事をできなくなったら、「高齢者向け住宅や施設に入所」したい人の割合が女性より高い。	自分で家事をできなくなったら、「子どもや他の家族・親族」にやってもらいたい人の割合が男性より高い。
夫婦のみで暮らす高齢者 (p72、73 参照)	現在の家事の担い手	金銭管理を除き、8割前後が配偶者(妻)にやっている。	金銭管理を除き、9割前後が自分で家事をしている。
	 将来の意向	配偶者(妻)が家事をできなくなったら、自分で家事をしようと思っている人が6割前後。	自分が家事をできなくなったら、金銭管理(6割近く)を除き、配偶者にやってもらおうと思っている女性は5割以下。
子どもと同居している高齢者 (p74、75 参照)	現在の家事の担い手	金銭管理を除き、6割半～7割弱が、配偶者(妻)に家事をやっている。	7割前後が自分で家事をしている。
	 将来の意向	配偶者(妻)が家事をできなくなったら、5割弱～6割が自分で家事をしようと思っている。	自分が家事をできなくなったら、子どもや他の家族にやってもらおうという人が6割半～7割半。配偶者(夫)に頼む、という人は2割前後。

第6章 介護保険制度

1 要介護認定の認定・申請状況

(1) 要介護認定の申請の有無

要介護認定を受けた高齢者は14%で、前回調査(12年)から5.9ポイントの増加。

介護保険制度の要介護認定を受けているかどうか尋ねたところ、「認定を受けている(申請中含む)」高齢者は14.2%となり、介護保険法施行の年に行われた「12年調査」の8.3%と比べると、5.9ポイント増加した。(表6-1-1)

性・年齢階級別でみると、前期高齢者(65歳～74歳)では男女とも「認定を受けている(申請中含む)」は5%程度でほぼ同じ割合だが、後期高齢者(75歳以上)になると、女性30.4%、男性19.3%と女性の方が11.1ポイント高い。

地域別では、「認定を受けている(申請中含む)」は区部が14.9%、市・町・村部が12.6%となっている。

表6-1-1 要介護認定の申請の有無一性・年齢階級、地域別、12年調査との比較

			総 数	請て認 中いを受 含む(受け し認め ないを ない申請 し認め ないを ない申請	無 回 答	
総数			100.0 (4,583)	14.2	85.6	0.2
性・年 齢階級 別	男		100.0 (2,052)	10.8	89.0	0.1
		65～74歳	100.0 (1,255)	5.4	94.4	0.2
		75歳以上	100.0 (797)	19.3	80.6	0.1
	女		100.0 (2,531)	16.9	82.9	0.2
		65～74歳	100.0 (1,359)	5.3	94.6	0.1
		75歳以上	100.0 (1,172)	30.4	69.4	0.3
地 域 別	区部	100.0 (3,073)	14.9	84.9	0.2	
	市・町・村部	100.0 (1,510)	12.6	87.2	0.2	
《12年 調査 参考》	総数		100.0 (5,086)	8.3	91.2	0.5
	男		100.0 (2,246)	5.8	93.8	0.4
	女		100.0 (2,840)	10.2	89.2	0.6

(注) 12年調査では選択肢が「申請した」「申請していない」であり、本調査と若干異なる。

健康意識別にみると、「認定を受けている(申請中含む)」高齢者の割合は、健康意識が「あまりよくない」高齢者で 29.3%、「よくない」高齢者でも 50.2%と、健康意識がよくない高齢者でも必ずしも認定申請を行っていないことがわかる。(表 6-1-2)

表 6-1-2 要介護認定の申請の有無

－健康意識、動作能力類型、日常生活での世話の必要の有無別

		総 数	請て認 中い定 含るを む(受 申け	し認 て定 いを ない申 請	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	14.2	85.6	0.2
健康 意 識 別	よい	100.0 (1,201)	3.2	96.8	0.1
	まあよい	100.0 (830)	7.1	92.5	0.4
	ふつう	100.0 (1,433)	12.8	87.2	0.1
	あまりよくない	100.0 (909)	29.3	70.6	0.1
	よくない	100.0 (205)	50.2	49.3	0.5
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	75.6	23.9	0.5
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	35.5	64.5	－
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	20.6	79.0	0.4
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	4.9	95.0	0.1
日 常 生 活 で の 世 話 の 必 要 の 有 無 別	世話の必要あり	100.0 (552)	75.9	23.6	0.5
	常に受けている	100.0 (205)	84.4	15.1	0.5
	ときどき受けている	100.0 (347)	70.9	28.5	0.6
	ほとんど受けていない	100.0 (4,007)	5.7	94.3	－

(2) 要介護認定の申請結果(現在の要介護度)

「要支援」「要介護度 1」の合計は 5 割弱で、前回調査(12 年)と比較すると、13.5 ポイントの増加。

現在、要介護認定を申請中、又は認定を受けていると答えた高齢者に、現在の要介護度を尋ねたところ、「要介護度 1」が 28.8%と最も多く、「要支援」が 19.4%と続き、「要介護度 1」「要支援」の合計は 48.2%と約 5 割である。(表 6-2-1)

12 年調査(「要支援」10.7%、「要介護 1」24.0%、合計 34.7%)と比較すると、「要支援」「要介護度 1」は 13.5 ポイント増加している。

表 6-2-1 現在の要介護度一性、年齢階級別、12 年調査との比較

		総数	申請認定中を	(非該当)	要支援	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	無回答
総数		100.0 (650)	16.2	2.5	19.4	28.8	15.5	7.5	6.0	2.8	1.4
					48.2						
性別	男	100.0 (222)	18.0	3.2	19.4	25.2	18.5	6.3	5.9	2.7	0.9
	女	100.0 (428)	15.2	2.1	19.4	30.6	14.0	8.2	6.1	2.8	1.6
年齢階級別	65～69歳	100.0 (52)	48.1	5.8	1.9	11.5	11.5	11.5	3.8	3.8	1.9
	70～74歳	100.0 (88)	26.1	5.7	21.6	23.9	13.6	1.1	3.4	2.3	2.3
	75～79歳	100.0 (169)	14.8	2.4	24.3	33.1	13.0	5.9	3.0	2.4	1.2
	80～84歳	100.0 (177)	12.4	2.3	18.6	29.4	17.5	11.3	5.1	1.7	1.7
	85歳以上	100.0 (164)	6.1	-	19.5	31.7	18.3	7.3	12.2	4.3	0.6
12年調査		100.0 (420)	11.4	8.1	10.7	24.0	17.9	9.0	10.0	8.8	-
					34.7						

健康意識別でみると、「非該当」は健康意識の「よい」人が7.9%で最も高く、「要介護5」は健康意識の「よくない」人で7.8%と最も高くなっており、健康意識と要介護認定結果は傾向が一致していることが分かる。(表6-2-2)

表6-2-2 現在の要介護度－健康意識、動作能力類型別

		総 数	申 認 定 中 を	(非 該 当 (自 立 当)	要 支 援	要 介 護 度 1	要 介 護 度 2	要 介 護 度 3	要 介 護 度 4	要 介 護 度 5	無 回 答
総数		100.0 (650)	16.2	2.5	19.4	28.8	15.5	7.5	6.0	2.8	1.4
健康 意 識 別	よい	100.0 (38)	47.4	<u>7.9</u>	13.2	10.5	10.5	5.3	2.6	2.6	-
	まあよい	100.0 (59)	23.7	1.7	27.1	25.4	16.9	-	-	1.7	3.4
	ふつう	100.0 (183)	22.4	3.8	16.9	25.7	12.0	10.4	6.0	0.5	2.2
	あまりよくない	100.0 (266)	7.5	1.5	21.8	33.5	17.3	7.9	7.1	2.6	0.8
	よくない	100.0 (103)	10.7	1.0	15.5	31.1	18.4	6.8	7.8	<u>7.8</u>	1.0
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高 齢者	100.0 (288)	2.4	0.3	8.3	28.8	24.3	15.3	13.2	6.3	1.0
	比較的重い障害 のある高齢者	100.0 (33)	6.1	6.1	24.2	33.3	27.3	3.0	-	-	-
	軽い障害のある 高齢者	100.0 (167)	9.6	4.2	35.9	38.9	8.4	1.8	0.6	-	0.6
	障害のない高齢 者	100.0 (162)	49.4	3.7	21.0	17.3	4.9	0.6	-	-	3.1

(3) 要介護認定を申請しない理由

要介護認定を申請しない理由のトップは、「健康なので、利用する必要がないから」が9割弱。

要介護認定を申請していない高齢者に、申請しない理由について尋ねたところ、「健康なので、利用する必要がないから」が88.7%で、9割近くを占めた。(表6-3)

日常生活をする上で、世話を「常に受けている」又は「ときどき受けている」高齢者では「家族の介護で十分だから」が59.2%と最も高く、次いで「健康なので、利用する必要がないから」24.6%、「制度がよく分からないから」13.1%、「手続きするのが面倒だから」10.0%と続く。

表6-3 要介護認定を申請しない理由(複数回答)

－性、年齢階級、日常生活での世話の必要の有無別、12年調査との比較

		総 数	健康 で必 要な 利 用 が な す	制 度 が よ く わ か ら な い	手 続 き が め づ か し い	手 続 き が め づ か し い	家 族 の 介 護 が 不 足 し て い る	他 人 に 入 れ て く れ な い	自 ら の 経 済 的 に 困 る	サ イ バ ン ク の 利 用 が 不 便 な	其 他	無 回 答
総数		100.0 (3,925)	88.7	4.2	3.2	1.9	7.7	2.0	1.6	1.0	1.3	
性 別	男	100.0 (1,827)	89.3	4.1	3.0	1.4	7.9	1.1	1.8	0.9	1.2	
	女	100.0 (2,098)	88.2	4.2	3.4	2.3	7.6	2.7	1.5	1.1	1.4	
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (1,226)	93.6	3.6	3.0	1.1	4.1	1.0	0.8	0.9	1.2	
	70～74歳	100.0 (1,244)	90.4	4.1	2.3	1.8	6.0	1.6	2.1	0.7	1.1	
	75～79歳	100.0 (785)	85.5	5.2	4.6	2.8	8.3	3.1	2.4	1.3	2.2	
	80～84歳	100.0 (438)	82.6	3.9	3.7	2.5	14.4	3.0	1.4	1.8	1.1	
	85歳以上	100.0 (232)	76.7	4.3	3.9	2.2	21.6	3.4	0.9	1.3	-	
日 常 生 活 の 世 話 の 有 無 別	世話の必要あり	100.0 (130)	24.6	13.1	7.7	10.0	59.2	9.2	5.4	6.2	2.3	
	常に受けている ときどき受けて いる ほとんど受けてい ない	100.0 (31)	16.1	19.4	12.9	12.9	61.3	16.1	6.5	6.5	-	
		100.0 (99)	27.3	11.1	6.1	9.1	58.6	7.1	5.1	6.1	3.0	
		100.0 (3,777)	90.9	3.9	3.1	1.6	6.0	1.7	1.5	0.8	1.3	
《参考》12年調査		100.0 (4,640)	87.6	-	3.9	1.9	8.1	-	0.8	1.6	1.6	

(注) 12年調査では「制度がよくわからないから」「他人を家に入れたくないから」の選択肢はなかった。

2 サービス選択の意思決定

介護保険のサービスの決定は自分で行うのが望ましいと考える人が増加。
年収が高くなるにつれて自分で決定することが望ましいと考えている。

介護保険のサービス選択の決定を行うのに、最も望ましい人は誰だと思いか、と尋ねたところ、「自分」が最も多く 42.7%、次いで「家族や親族」27.6%、「専門家(ケアマネジャー、かかりつけ医等)」15.1%と続く。12 年調査(選択肢に「わからない」がなかった点が、本調査と異なるが)の 40.1%と比較すると、「自分」は 2.6 ポイント増加した。(表 6-4-1)

年齢階級別でみると、年齢が上がるにつれて、「自分」で決定するよりも「家族や親族」が決定するのが望ましいと答える人の割合が高くなっている。

日常生活での世話の必要の有無別でみると、「世話の必要あり」の高齢者では、最も望ましい人は「自分」が 31.7%、「家族や親族」が 33.7%であった。世話をほとんど受けていない高齢者と比較すると、「自分」は 12.4 ポイント低く、「家族や親族」が 6.9 ポイント高くなっている。

表 6-4-1 介護保険サービスの決定を行うのに望ましい人
一性、年齢階級、日常生活での世話の必要の有無別、12 年調査との比較

		総 数	自 分	家 族 や 親 族	専 門 家 （ ケ ア マ ネ ジ ャ ー 、 か か り つ け 医 等 ）	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	42.7	27.6	15.1	11.4	3.3
性 別	男	100.0 (2,052)	43.3	26.7	15.3	11.5	3.3
	女	100.0 (2,531)	42.2	28.3	14.9	11.3	3.4
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (1,279)	47.2	22.8	15.8	12.4	1.8
	70～74歳	100.0 (1,335)	45.5	24.6	16.6	10.8	2.5
	75～79歳	100.0 (955)	42.9	28.3	14.1	11.2	3.5
	80～84歳	100.0 (617)	36.1	34.7	12.8	10.7	5.7
	85歳以上	100.0 (397)	27.7	40.1	13.4	11.6	7.3
日 常 生 活 で の 世 話 の 必 要 の 有 無 別	世話の必要あり	100.0 (552)	31.7	33.7	18.1	7.6	8.9
	常に受けている	100.0 (205)	22.4	43.4	16.1	3.9	14.1
	ときどき受けている	100.0 (347)	37.2	28.0	19.3	9.8	5.8
	ほとんど受けていない	100.0 (4,007)	44.1	26.8	14.7	11.8	2.6
《参考》 12年調査		100.0 (5,086)	40.1	37.3	19.1	-	3.5

(注) 12年調査では「わからない」という選択肢はなかった。

世帯構成(世代別)でみると、「単身世帯(ひとりぐらし)」では、「自分」が、52.4%と、他の世帯構成と比較して最も高く、「三世代世帯」では「家族や親族」が36.8%と最も高い。

年収別でみると、「自分」が望ましいと答えた割合は、年収「50 万円未満」が33.8%で最も低く、「1,000 万円以上」が54.9%で最も高い。また、「家族や親族」が望ましいと答えた割合は、「50 万円未満」が37.7%と最も高く、「1,000 万円以上」が16.9%で最も低い。
(表 6-4-2)

表 6-4-2 介護保険サービスの決定を行うのに望ましい人—世帯構成(世代別)、年収別

		総 数	自 分	家 族 や 親 族	等 か マ 専 — か ネ 門 リ ジ 家 つ け ー 医 、 ケ 、 ア	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	42.7	27.6	15.1	11.4	3.3
(世 帯 構 成 別)	単身世帯 (ひとりぐらし)	100.0 (863)	<u>52.4</u>	16.9	15.9	12.3	2.5
	一世代世帯 (夫婦のみ)	100.0 (1,700)	42.1	28.4	15.4	11.0	3.1
	二世代世帯	100.0 (1,294)	41.1	28.7	14.2	11.7	4.3
	三世代世帯	100.0 (619)	34.7	<u>36.8</u>	15.3	10.3	2.7
年 収 別	50万円未満	100.0 (411)	<u>33.8</u>	<u>37.7</u>	15.1	10.7	2.7
	50万円以上 100万円未満	100.0 (781)	41.5	27.4	15.4	12.3	3.5
	100万円以上 150万円未満	100.0 (588)	40.0	28.1	16.0	12.1	3.9
	150万円以上 200万円未満	100.0 (462)	42.6	27.7	15.4	10.2	4.1
	200万円以上 250万円未満	100.0 (496)	44.0	25.2	16.9	11.1	2.8
	250万円以上 300万円未満	100.0 (497)	45.9	26.0	14.7	10.7	2.8
	300万円以上 500万円未満	100.0 (646)	44.1	29.1	15.0	9.9	1.9
	500万円以上 700万円未満	100.0 (205)	47.8	22.0	16.6	8.8	4.9
	700万円以上 1,000万円未満	100.0 (122)	50.0	22.1	12.3	9.8	5.7
	1,000万円以上	100.0 (142)	<u>54.9</u>	<u>16.9</u>	14.1	11.3	2.8

3 介護予防健診の受診意向

介護予防健診の「受診希望あり」は5割弱。

要介護認定で要介護度2～5と認定されている以外の高齢者に対し、区市町村で行われる介護予防を目的とした健康診断の受診意向を尋ねたところ、「積極的に受診したい」「あまり気は進まないが、受診してもよい」の合計「受診希望あり」は46.5%と、5割弱となった。（表6-5）

性別でみると、「受診希望あり」の割合は女性49.6%、男性42.9%と、女性の方が男性より6.7ポイント高い。また、年齢階級別でみると、年齢層が高くなるにつれて、「受診したいと思わない」と回答する人の割合が高くなっている。

地域別では、「積極的に受診したい」が区部で24.7%に対し、市・町・村部では35.0%、「受診したいと思わない」も区部の方が多く、市・町・村部の高齢者の方が介護予防健診の受診意向が強いと言える。

表 6-5 介護予防のための健診の受診意向－性、年齢階級、地域別

		総 数	受 診 希 望 あ り	診 積 極 的 に 受 診 し たい	が 進 ま な い が あ ま り 気 は 進 ま な い 受 診 し ても よ い	じ す で な い 必 要 を 感 ず く も あ ら う 受 診 し たい	思 わ な い 受 診 し たい	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,376)	46.5	28.1	18.4	20.7	17.8	8.6	6.4
性別	男	100.0 (1,978)	42.9	25.7	17.2	23.1	19.6	8.3	6.2
	女	100.0 (2,398)	49.6	30.1	19.5	18.8	16.3	8.8	6.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,263)	45.8	29.7	16.1	27.1	13.5	6.5	7.1
	70～74歳	100.0 (1,317)	50.0	30.5	19.5	21.0	16.1	7.1	5.7
	75～79歳	100.0 (914)	48.2	27.1	21.1	16.8	19.8	9.0	6.1
	80～84歳	100.0 (554)	41.9	25.6	16.2	17.1	23.6	10.6	6.7
	85歳以上	100.0 (328)	38.7	19.2	19.5	11.6	25.0	18.0	6.7
地域別	区部 計	100.0 (2,931)	42.5	24.7	17.8	21.5	18.4	10.0	7.5
	市・町・村部 計	100.0 (1,445)	54.7	35.0	19.7	19.1	16.4	5.7	4.2

～「介護予防」と「介護予防健診」～

高齢になっても健康で生き生きとした生活を送るために介護が必要になることをできるかぎり予防し、介護が必要になっても状態が悪化しないようにする取り組みや、その考え方を「介護予防」と言う。

「介護予防健診」はその「介護予防」を目的に、体の衰えや、転倒・尿失禁・低栄養・認知症などの危険がないかどうかを発見するため、平成18年4月から区市町村で行われている健康診断である。

4 介護予防サービス

(1) 参加意向

介護予防サービスへの参加希望者は、約3割～4割。

行政機関や介護保険のサービス事業者により提供される以下のような内容の介護予防のサービスへの参加を、医師や保健師などの専門家から勧められた場合の参加意向について尋ねた。

介護予防サービスとして挙げたメニューと、内容は以下の通り。

① 運動器(注1)の機能向上

専門の指導員による指導の下で、ストレッチ運動やバランス体操、筋力向上トレーニングなどを行うことにより、普段あまり使わない筋肉に刺激を与え、歩行などの運動器の機能向上に取り組む。

② 栄養改善

管理栄養士などが栄養改善のための講義や実習を行ったり、食生活の状況や健康状態の相談に乗り、その人にあった栄養改善サービス計画を作成するなど、栄養状態の改善を指導する。

③ 口腔機能の向上

歯科衛生士などの専門家の指導の下で、歯磨きや入れ歯の清掃の訓練を受けたり、口やあごの体操を行い、食物を口に含んだり、噛み砕いたり、飲み込んだりする口腔機能の向上に取り組む。

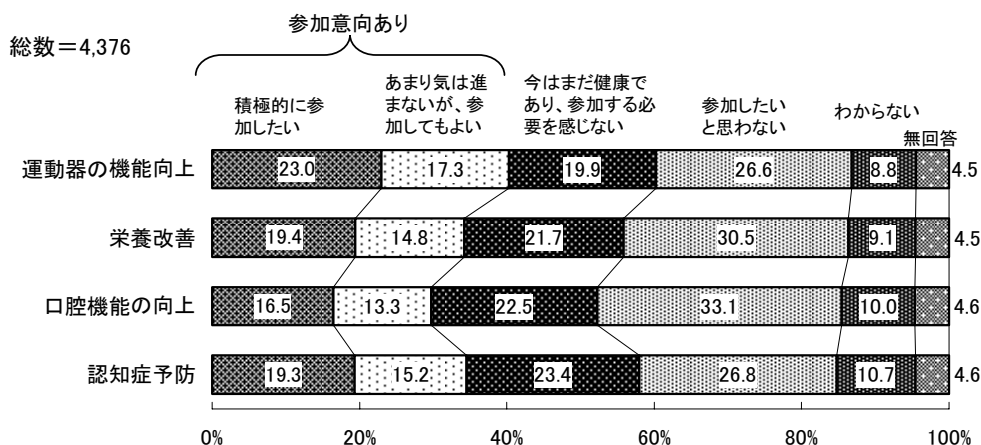
④ 認知症予防

保健師や看護師などが現在の状態を適切に把握した上で、運動などの生活行動や趣味活動などを活発化されることにより、認知症の発症を防いだり遅らせたりすることを目指す。

(注1) 運動器とは、骨、関節、筋肉、神経などの身体活動を担う組織、器官の総称をいう。

上記①～④への参加意向は、「積極的に参加したい」と「あまり気は進まないが、参加してもよい」を合計した「参加意向あり」は、「運動器の機能向上」が40.3%と最も多く、次いで「認知症予防」34.6%、「栄養改善」34.2%、「口腔機能の向上」29.8%の順となっている。(図6-1)

図6-1 介護予防サービスへの参加意向



(注2) 回答者は、介護保険制度で要介護度2～5の認定を受けている者を除く4,376人。

メニューのうち、最も参加希望者の多かった①「運動器の機能向上」についてみる。

「積極的に参加したい」「あまり気は進まないが、参加してもよい」を合計した「参加意向あり」が40.3%となっている。(表6-6-1)

性別でみると、「参加意向がある」のは男性が36.9%、女性が43.2%と女性の方が高く、特に女性の65～74歳で48.4%と半数近くになった。

また、健康意識別でみると、「よい」「まあよい」と答えた高齢者では、「積極的に参加したい」と「今はまだ健康であり、参加するのを感じない」の割合がほぼ同じであった。一方、健康状態がよいくない人では「参加したいと思わない」が46.6%で最も高い。

表 6-6-1 介護予防サービスへの参加意向(運動器の機能向上)

— 性・年齢階級、世帯構成(世代別)、健康意識別

		総 数	参 加 意 向 あ り	し積 た極 いた に 参 加	加まあ しなま ていり もが気 よ、は い参進	必あ今 要りは を感参 じだ健 なす康 いるで	わ参 ない した いと思	わ から ない	無 回 答
総数		100.0 (4,376)	40.3	23.0	17.3	19.9	26.6	8.8	4.5
性・ 年齢階 級別	男	100.0 (1,978)	36.9	20.7	16.1	23.2	27.2	7.9	4.9
	65～74歳	100.0 (1,233)	37.7	21.9	15.8	25.7	24.0	7.5	5.1
	75歳以上	100.0 (745)	35.4	18.8	16.6	18.9	32.6	8.6	4.4
	女	100.0 (2,398)	43.2	24.9	18.3	17.3	26.0	9.5	4.1
	65～74歳	100.0 (1,347)	48.4	30.0	18.4	21.6	18.6	7.1	4.2
	75歳以上	100.0 (1,051)	36.4	18.3	18.2	11.7	35.4	12.5	4.0
(世帯 構成 別)	単身世帯 (ひとり暮らし)	100.0 (836)	38.9	21.1	17.8	12.9	32.9	10.5	4.8
	一世帯世帯 (夫婦のみ)	100.0 (1,642)	42.5	25.0	17.5	22.1	23.3	7.5	4.6
	二世帯世帯	100.0 (1,224)	39.4	23.2	16.2	22.5	25.3	8.5	4.2
	三世帯世帯	100.0 (576)	39.2	20.7	18.6	18.4	29.0	9.4	4.0
健康 意識 別	よい	100.0 (1,193)	39.6	26.2	13.4	27.6	21.9	6.6	4.4
	まあよい	100.0 (819)	42.4	24.8	17.6	25.3	20.9	7.1	4.4
	ふつう	100.0 (1,380)	43.0	22.8	20.2	19.1	25.4	8.8	3.6
	あまりよくない	100.0 (816)	38.4	18.9	19.5	8.0	37.1	11.3	5.3
	よくない	100.0 (163)	23.3	13.5	9.8	3.1	46.6	19.0	8.0

地域別でみると、「参加意向あり」が区部では37.0%、市・町・村部では47.0%で、市・町・村部の方が10ポイント高い。また、「参加したいと思わない」が区部では28.1%、市・町・村部では23.4%と、市・町・村部の方が4.7ポイント低くなっており、区部より市・町・村部の高齢者の方が介護予防サービスへの参加意向が強いといえる。(表6-6-2)

動作能力類型別でみると、障害のない高齢者では「参加意向あり」が42.3%と最も高いが、軽い障害のある高齢者になると、「参加意向あり」が37.4%となり、以降動作能力が低下するごとに参加意向の割合が低くなっている。

表 6-6-2 介護予防サービスへの参加意向(運動器の機能向上)―地域、動作能力類型別

		総 数	参 加 意 向 あ り	積 極 的 に 参 加	あ ま な ま い り も が 気 よ い 参 進	必 要 は あ る ま だ 感 じ な い で	参 加 し た い と 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,376)	40.3	23.0	17.3	19.9	26.6	8.8	4.5
地 域 別	区部 計	100.0 (2,931)	<u>37.0</u>	20.6	16.4	20.4	<u>28.1</u>	9.6	4.8
	区中央部	100.0 (213)	42.7	23.5	19.2	19.2	25.8	8.5	3.8
	区南部	100.0 (366)	37.2	21.6	15.6	24.6	28.1	8.2	1.9
	区西南部	100.0 (389)	36.0	18.3	17.7	26.0	26.2	9.5	2.3
	区西部	100.0 (339)	36.6	17.4	19.2	20.4	21.8	11.2	10.0
	区西北部	100.0 (674)	38.4	21.8	16.6	17.8	30.9	6.2	6.7
	区東北部	100.0 (530)	33.6	20.8	12.8	20.0	27.5	12.8	6.0
	区東部	100.0 (420)	37.4	21.0	16.4	17.1	32.4	11.7	1.4
	市・町・村部 計	100.0 (1,445)	<u>47.0</u>	27.8	19.2	18.9	<u>23.4</u>	7.0	3.7
	西多摩	100.0 (186)	57.5	31.7	25.8	21.5	11.8	6.5	2.7
	南多摩	100.0 (399)	51.4	30.6	20.8	18.8	23.1	4.3	2.5
	北多摩西部	100.0 (210)	35.7	21.9	13.8	23.3	22.4	4.8	13.8
	北多摩南部	100.0 (353)	38.5	22.7	15.9	16.4	32.9	11.0	1.1
	北多摩北部	100.0 (297)	52.5	32.0	20.5	17.2	20.5	7.7	2.0
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高齢者	100.0 (211)	24.2	11.8	12.3	0.9	47.4	18.5	9.0
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (83)	30.1	15.7	14.5	8.4	42.2	14.5	4.8
	軽い障害のある高齢者	100.0 (792)	<u>37.4</u>	19.1	18.3	12.4	36.4	10.1	3.8
	障害のない高齢者	100.0 (3,290)	<u>42.3</u>	24.8	17.5	23.3	22.5	7.7	4.3

残りのメニュー②～④についても同様の傾向が見られたので、分析の詳細については省略する。他のメニューについても共通して言えることは以下のとおりである。

- I 区部より市・町・村部の方が参加意向が強い。
- II 男性より女性の方が「参加意向あり」の割合が高い。特に前期高齢者(65～74歳)では男女で10ポイント以上の差がある。
- III 年齢が上がるにつれて、「参加意向あり」の割合が減る。
- IV 世帯構成(世代別)の、ひとりぐらし高齢者は「参加したいと思わない」割合が高い。
- V 健康意識別でみると、健康意識の「よい」人が「積極的に参加したい」割合が高く、「よくない」人は「参加したいと思わない」割合が高い。「積極的に参加したい」「あまり気は進まないが、参加してもよい」を合計した「参加意向あり」は、健康意識が「ふつう」の人が、どのメニューも最も多い。
- VI 動作能力が低下するほど、参加意向が弱くなる。

(2) 参加するために必要となる条件

介護予防サービスに参加するための条件のトップは「身近な地域で行われる等、参加しやすいこと」で6割近い。

要介護度 2～5 以外の高齢者に、将来、介護予防サービスに参加すると仮定したときに、参加のために必要となる条件は何か、と尋ねたところ、「身近な地域で行われる等、参加しやすいこと」が 59.8%と最も多く、次に「料金が無料又は安いこと」50.3%と続く。

性別でみると、女性では、どの条件も男より割合が高い。しかし、男性では、「どういう条件であっても、参加したくない」のみ 11.2%と、女性の割合(8.3%)より高くなっており、女性の方が将来参加する意向を持っていることうかがえる。また、「一緒に参加する仲間がいること」の割合は、男性 12.9%、女性 21.1%と、女性が 8.2 ポイント高く、男女差が最も大きい。(表 6-7-1)

表 6-7-1 介護予防サービスに参加するために必要となる条件(複数回答)

一性、年齢階級別

		総 数	等身 、近 な地 域で 行わ れ るこ と	と料 金 が 無 料 又 は 安 い こ と	い 一 緒 に 参 加 す る 仲 間 が い る こ と	と説 明 事 が 前 に さ わ れ か て り や す い こ と	効 参 加 し て 、 介 護 予 防 の こ と	そ の 他	な い も ど う い う 条 件 で あ っ て 思 わ れ ない	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,376)	<u>59.8</u>	<u>50.3</u>	17.4	39.4	27.8	1.3	9.6	14.7	4.0
性別	男	100.0 (1,978)	56.6	48.0	<u>12.9</u>	37.5	26.0	1.1	<u>11.2</u>	15.7	4.4
	女	100.0 (2,398)	62.4	52.1	<u>21.1</u>	41.0	29.4	1.5	<u>8.3</u>	13.9	3.6
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,263)	64.2	56.9	17.8	44.4	30.7	0.8	6.4	13.5	4.6
	70～74歳	100.0 (1,317)	61.2	52.3	18.7	41.9	28.4	1.3	9.3	12.5	3.3
	75～79歳	100.0 (914)	60.8	49.7	17.1	38.0	28.7	1.3	8.9	15.1	4.6
	80～84歳	100.0 (554)	53.4	40.6	16.8	32.5	23.3	1.3	15.7	16.2	3.1
	85歳以上	100.0 (328)	44.5	34.5	12.5	25.6	19.8	3.7	14.6	24.7	4.3

地域別でみると、「身近な地域で行われる等、参加しやすいこと」の割合は市・町・村部で、68.9%と区部(55.3%)より 13.6 ポイント高い。また、「料金が無料又は安いこと」も区部(45.3%)より 15.1 ポイント高くなっている。(表 6-7-2)

表 6-7-2 介護予防サービスに参加するために必要となる条件(複数回答)－地域別

		総 数	参 加 し な 地 域 で 行 わ れ る 等 、	料 金 が 無 料 又 は 安 い こ と	こ と 一 緒 に 参 加 す る 仲 間 が い る	サ ー ビ ス の 内 容 に つ い て 事 前 に わ か り や す い こ と	が 参 加 し て 、 介 護 予 防 の 効 果 が 感 じ ら れ る こ と	そ の 他	参 加 し た い と 思 わ な い こ 件 で あ つ て も 、	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,376)	59.8	50.3	17.4	39.4	27.8	1.3	9.6	14.7	4.0
地 域 別	区部 計	100.0 (2,931)	<u>55.3</u>	<u>45.3</u>	16.3	36.6	26.3	1.5	10.6	17.1	4.2
	区中央部	100.0 (213)	57.3	41.8	16.9	39.4	28.6	2.3	12.2	16.4	2.8
	区南部	100.0 (366)	53.6	44.3	16.9	40.7	26.5	0.5	10.7	17.2	2.2
	区西南部	100.0 (389)	61.7	44.7	15.4	40.4	27.8	1.5	9.8	12.9	2.6
	区西部	100.0 (339)	57.5	41.3	13.6	38.6	31.9	1.2	7.7	11.8	8.8
	区西北部	100.0 (674)	52.8	45.5	18.7	36.8	27.0	1.9	12.5	14.5	6.5
	区東北部	100.0 (530)	53.4	50.2	14.0	31.7	24.3	1.5	9.4	22.1	3.4
	区東部	100.0 (420)	54.3	45.0	17.6	32.1	20.5	1.2	11.7	23.3	1.7
	市・町・村部 計	100.0 (1,445)	<u>68.9</u>	<u>60.4</u>	19.6	45.1	30.9	1.0	7.5	10.0	3.5
	西多摩	100.0 (186)	67.7	60.8	20.4	28.5	25.8	1.1	3.2	12.9	4.3
	南多摩	100.0 (399)	70.2	61.9	18.8	48.9	34.3	0.8	6.8	10.0	2.0
	北多摩西部	100.0 (210)	67.1	56.7	14.8	43.3	30.0	1.4	7.6	5.7	12.4
	北多摩南部	100.0 (353)	66.9	54.7	19.5	44.2	26.9	1.4	8.2	14.2	0.8
	北多摩北部	100.0 (297)	71.4	67.7	23.6	52.9	35.0	0.7	10.1	6.1	2.0

(注) その他の意見(計 58 件)としてとりあげられた主なものは、以下の通りである。

- サービスを受けに行く際の手段に問題がないこと(18 件)
- サービスの質・内容が良いこと(10 件)
- 家族の世話などに対するフォロー(5 件)
- 自分の体調に関すること(8 件)
- 時間に関すること(4 件)

介護保険制度に関して寄せられた意見・要望の内訳は、次のとおりである。

介護サービスの充実・改善	54 件
介護保険料	24 件
申請方法・要介護認定の改善	22 件
介護予防の推進	7 件

【寄せられた意見・要望の一部の紹介】

- 動けなくなったときの介護（体の介護、生活の手助け）はしてほしい。入浴の介護などを充実してほしい。介護サービスについては、お金は出してもよいが安く、日数も多くできるといようにしてほしい。（女性・70代）
- 外出するのに足が不自由で出かれられないので、外出のヘルプ（送迎）があると助かる。（女性・70代）
- 69歳夫が64歳の車いすの妻を連れての外出はとても大変です。道も悪いし狭い。その上車が多いので遠回りしても静かな道を選んでしまう。夫も体がいつまで持つか先行き心配です。ホームヘルプサービスの充実とショートステイがいつでも申し込めるといいのですが・・・。（女性・60代）
- 公的なショートステイの利用できる施設の充実。突発的な事情で利用したい場合もあるが常に空きがなく、3ヶ月位前に予約しないと利用できないことが多い。（女性・70代）
- 現実的なサービスを行ってほしい（介護認定に手間取り、状態はどんどん悪くなるのに、サービスが受けられない）。奥さんが介護を必要とした時、夫も高齢で出来ないのに、夫の食事の支度は出来ないというのはおかしい。（男性・60代）
- 介護保険料の使い方が気になる。（使わなくてもよい人がやたら使っているように思う。本当に必要な人は生活が苦しいため我慢している。）今のままだとそのうち破たんするが、負担が大きくなると思われるので、認定の仕方や使われ方をきちんと行政でチェックすべきだ。（男性・60代）
- 少ない年金生活から介護保険料が引かれる額が多すぎると思う。世話になっていない私共は負担が重く思える。主人もガンで医療費がかかり生活に困っている。（女性・70代）
- 年とともに健康に気をつけて過ごしたいが、自分でできなくなったら、人の力を借りなくてはならない。そうならないために、予防できる方法を教えて下さい。（女性・60代）
- スポーツ施設を介護予防の為に沢山作ってもらいたい。簡単にだれでも利用しやすい施設を提供してほしい。老人や生活保護を受けている人も利用できるもの。介護にお金をかけるよりも予防にお金をかけてください。（男性・70代）